

釧路の地形

釧路の地形は、氷河作用、海面の変化および火山活動の影響を受けてきました。時間をかけて、湿原や多様な海洋環境などの独特な景観が発達しました。

釧路湿原

釧路湿原は、約 6,000 年前に形成され始めました。この時期に、世界的に寒冷な気候が続いて海面が下がり、以前は水中にあった海岸平野が地上に現れたのです。釧路湿原には、タンチョウ（学名： *Grus japonensis*）など、数千種の動植物が生息しています。釧路湿原は 28,788 ヘクタールにわたる日本最大の湿原です。

火山湖

釧路湿原の北では、最終氷期の間、いくつかのカルデラが形成されました。カルデラとは、火山の中心部が噴火により陥没してできた窪みのことです。形成されたカルデラに水が溜まり、阿寒湖、摩周湖、屈斜路湖になりました。屈斜路湖は、日本最大のカルデラ湖です。屈斜路湖からは釧路川が流れ出し、釧路川は釧路湿原を通り抜けて釧路湾に注いでいます。

釧路湾

釧路湾は、地理的に多様な環境であり、豊富な海洋生物のすみかとなっています。釧路湾は、海底谷によって 2 つの部分に分けられています。西側には砂浜の穏やかな海岸線が広がり、東側には険しい岩壁があります。釧路海底谷と海岸線の環境の海洋生物相は独特です。砂地の海岸地域にはカレイ類が豊富です。海底谷の斜面には深海に住むエビやカニが生息しています。